

# 農業名人

有害鳥獣対策名人 ねばし 根橋 まさみ 正美

昭和23年生まれ 辰野町在住

「農地には作物を 農家には夢を」



辰野町川島地区は、辰野町の北に位置し、山間地でイノシシ、サルなどの有害鳥獣被害対策が集落の大きな課題となっている。

平成21年3月の退職後、本格的に有害鳥獣対策に動き始めた。平成22年から地元である川島区の有害鳥獣対策委員長に就任すると、信州大学農学部との協力を得て辰野町が「サル群管理通報システム」を導入。サルに発信機をつけて群れを監視するこのシステムは町内初の試みだった。また同年から「中型獣対策モデル事業被害対策講習会」「有害鳥獣対策学習会」等の講習会や学習会、意見交換会を計画し開催。このころに、誰でも簡単に使用できるサル脅し花火発射器「サルドンビックリ」を開発、普及に努めた。平成24年には地区の猟友会支部長に就任し、猟友会の立場からも有害鳥獣駆除対策に力を注いだ。区内を中心に開催していた講習会は町内へと広げ、「いたずら『サル』の被害を防ごう講習会」、「いたずら『サル』の被害を減らす講演会」などを開催し、地元区民だけでなく町内外への被害対策の啓発を続けた。県の元気づくり支援金を利用した「サル群行動マップづくり事業」や、サル出没カレンダー付け、講習会ではサルの出没を地図に落とすワークショップを行うなど、特にサルの生息実態調査や農作物被害調査にも力を入れる。研修会、講習会を引き続き開催するほか、平成27年は有害鳥獣対策に関わる人の知識向上を目的に「川島区立野生鳥獣被害防衛短期大学」を開校。県や国の進める鳥獣被害対策について知る、電気柵の効果と設置・撤去の方法、サル対策の先進地視察、GPSを使ったサル群行動調査とサルを寄せ付けられない集落づくり、ジビエ料理と捕獲獣体処理、新たな手法の提案と信州大学教授による講義、など年6回のカリキュラムを短大事務局として運営し、今年2月無事修了式が行われた。

有害鳥獣対策を進め、被害をなくしていくためには、正しい知識を持って対策にかかれる人を増やすこと、気軽に息の長い取り組みを地域住民で続けることが不可欠と考える。



「有害鳥獣から暮らしを守り

農地に作物を 農家には夢を」